

	<p>Never Give Up Act on my own Change myself Knowledge is money</p>	<p>Neo 名寄高校2期生(通算79期生) 進路特別号 ① 令和6年6月7日 進路担当：佐川 大樹</p>
---	---	--

☆科目選択に向けて

今日のLHRは科目選択ガイダンスです。以前、自分の進路希望に合わせてパターンを選ぶという話をしました。くわしいことはガイダンスで話を聞いてもらうこととして、ここでは予備知識としてざっくりとした話をします。

まず情報技術科については、初めから情報技術に関する専門的な勉強をするために入学してきたわけですので、専門的な科目(「専科の授業」という言い方をしています)がすでにこの先埋まっています。したがって今回、情報技術科の生徒が選べる場所は共通選択の4時限分ということになります。別な言い方をすれば、すでに高校受験の段階で情報技術科を選択したので、今回選択する部分はそんなに多くないということです。

問題は普通科の生徒です。(注1) 高校受験で何を専門とするかを決めていない(言い方を変えれば入学してから専門を決める)ので、ここで悩んでもらうことになります。ここでいう専門とは、「文系」か「理系」のどちらかにするかということです。

文系とは、一般的に経済学、人文学、教育学、法学、外国語など文学を学ぶ分野です。一方、理系とは、一般的に医学、薬学、農学、工学など理学を学ぶ分野です。高校では英語、数学、国語、理科、社会(高校では「地理歴史」と「公民」の2教科に分かれます)をまんべんなく勉強しますが、文系は国語と社会を重点的に勉強し、理系は数学と理科を重点的に勉強します。ちなみに英語は文系、理系に関わらずしっかり勉強していきます。

大学の受験科目という観点から見れば、かなり大雑把ではありますが、文系と理系の違いは次のようになります。

文系：英語、国語、地歴・公民(2科目)、数学(Ⅲは必要ない)、理科(注2)「基礎」と付く科目2つ)、情報

理系：英語、国語、地歴・公民(1科目)、数学(Ⅲまで必要)、理科(注3)「基礎」と付かない科目2つ)、情報

もちろんこんなに単純ではないので、例えば、理系だからといって必ずしも数Ⅲまで必要とするわけではありません（もっとも大学に入学した後に数Ⅲレベルの知識が求められることは多々あります）。そこは自分が志望する大学の受験科目によって、いる、いないを判断していけばいいこととなりますが、この時期から受験科目を絞るというはお勧めしませんので、まずは文系、理系のどちらにするかということから考えていきましょう。ここで注意しておきたいのは、「数学が苦手だから文系」というように消極的な理由で選ばないことです。あくまでも自分の希望する進路や興味・関心を考えてうえで選択してください。

（注 1）

もっともこのこと自体は別に悪いことではなく、全国の高校生の約 73%が普通科に在籍しています。また、大学受験では普通科の教科が受験科目となるため、大学進学を前提として普通科を選ぶ高校生は多いです（もちろん、専門学科の高校からも大学へ進学することは可能です）。

大学に入ってから自分の専門を決めていくといったケースもあり、代表的な大学に、北海道大学の総合文系、総合理系が挙げられます。そこでは 1 年生は幅広く学び、2 年生から学生の希望により専門の学科に進みます。希望者が多い場合は 1 年生のときの成績順で決まります。

（注 2）

この辺がものすごくわかりにくくてまぎらわしいのですが、理科には 4 つの科目（物理、化学、生物、地学）があり、それぞれ「物理」「物理基礎」のように「基礎」が付く科目と付かない科目（専門物理などと呼んでいます）に分かれます。共通テストでは、「基礎」が付く科目は 0.5 科目分の扱いで、2 つで 100 点満点となります（名高生で多いのは、「化学基礎」と「生物基礎」の組合せです）。

（注 3）

専門科目は基礎科目で学習した内容を土台として、発展的な内容や深く掘り下げた内容を扱っています。共通テストでは、専門科目はもちろん 1 科目分の扱いで、理系の場合、これが基本的に 2 つ必要になります。よくある組合せは「物理・化学」かまたは「化学・生物」です。

